



コタンメール 48号

平成 21 年 10 月 15 日 発行

【行事】秋のコタンノミ 10月31日開催！！

アイヌ文化フェスティバル アキ！（フェスティバル開催！）



●Team Nikaopによる帯広地方の「踊り競べ」



●「来年もやる！！」会場でも大人気だった子どもたち

10月10日、白老中央公民館で09年度のアイヌ文化フェスティバルが開催され、550名の来場者がアイヌ文化を体感しました。今回のフェスティバルは、アイヌ古式舞踊がユネスコ無形文化遺産に指定されたことを記念し、芸能をメインテーマに準備が進められてきました。

アイヌ民族博物館も、例年通り、職員による開式の祈りと神酒などの準備、芸能公演と司会を行ったほか、絵画資料や写真・映像で芸能を紹介した展示コーナー、来場者に配布されたエコバッグのロゴデザイン、記念撮影コーナーに置かれたボディペイントシールのデザインも担当しました。また、芸能公演に参加した担い手研修生、Team Nikaop、7人の子供たちのプロデュースも行うなど、これまで以上に多面的な参画をしました。

（きたはら じろうた）

アコラシノッ モシリエピッタ シピラシパ！（アイヌ芸能世界へ！）



10月1日、「アイヌ古式舞踊」がユネスコの無形文化遺産になりました。無形文化とは、伝統的舞踊、音楽、演劇、工芸技術、祭礼等といった、形を持たない文化を言います。ユネスコ無形文化遺産は、消失の危機から守り、次の世代へ伝えていくべき無形文化を特定し、国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的としています。日本国内では、これまでに能や歌舞伎が指定されていました。

アイヌ古式舞踊（楽器演奏なども含む）は、1984年と94年の2度にわたり、17団体が保持する演目が国の重要無形民俗文化財に指定され、このことが当事者の大きな励みとなって文化振興の活動全体が盛り上がりました。このたびの指定でも、これを記念する行事が開催され、これまで以上に芸能の知名度が上がるのが期待されます。当館でも芸能をテーマにしたフェスティバルへの参加や、企画展など関連行事が続きます。

（きたはら じろうた）

赤阪ニシパ ヤイエイソイタク！（アーティストトーク開催！）



当館で開催中の写真展「The Myth」に関連し、写真家の赤阪氏と来場者の交流や作品への理解を深めることを目的として、アーティストトークが行われました。17時に開場し、夕焼けと静けさに包まれたカフェリムセ内で、スライドを上映しながら、写真を撮り始めたきっかけ、これまでの取材先や現地での体験が語られました。北米先住民の語り部による創世神話やクマの親子に出会ったときの話などを聞くうちに、観客の心も写真の中の世界に引き込まれて行きました。その後、観客は写真展会場に移動し、写真を鑑賞しつつ赤阪氏の解説に耳を傾けました。赤阪氏の写真集も好評で、サインを求める姿もありました。

（きたはら じろうた）



ミュージアムカフェ「リムセ」での講演会



サインを求める来場者

メタボックルに聞こう

Q：メタボックルさん、イランカラブテ。今日は忙しそう…でもないか。

メ：ふうふう、ああクモンタピ（忙しい）。

Q：それはどんぐりですね？曲芸の練習ですか？

メ：ニセウ（どんぐり）ネルウェネ。集めておいて食べるんだルウェネ。コムニ（カシワ）は、こういう食べ物をいっぱいくれる、いいカムイダルウェネ。これをゆでて、つぶして食べたらもう… むほほ…アパチヨンチョン！！（おおっと！！）

Q：おととと、転びますよ。料理する時は呼んでくださいね。イヤイライケレ。



メタボックル：身長 50mm 腹囲？ 出身？ 年齢？
行きつけスポット カフェ&レストラン「とあんくる」